

八尾歴史物語

十一巻

〔河内名所図会を訪ねて その5 (教興寺) 〕

古墳や寺社などの史跡めぐりだけでなく、体力づくりのハイキングを兼ねて、古い街道など昔の人々が歩いたルートを実感しながら散策する人もいるでしょう。

史跡ハイキングのルートといえるのが、中世以降、盛んになった「河内三太子」と呼ばれた聖徳太子ゆかりのお寺をめぐる巡礼の旅です。

太子のお墓がある太子町の叡福寺を「上の太子」、物部氏との戦いの場となった八尾市の大聖勝軍寺を「下の太子」、その間にある太子発願で蘇我氏の建立と伝わる羽曳野市の野中寺を「中の太子」と呼びました。

江戸時代の史跡ガイドブックともいえる『河内名所図会』にも、叡福寺、大聖勝軍寺、野中寺が紹介されています。叡福寺では、太子のお墓の横穴式石室の中に

3つの棺があつた様子などが詳しく記載されています。また、お寺にあるたくさん建物の宝物が紹介されました。

河内三太子を巡るルートは、この叡福寺を出発点として、日本最古の官道といわれる竹内街道を西へ進むと、野中寺に着き、

東高野街道に道を变えて大和川を渡って大聖勝軍寺に至ります。八尾市内には、大聖勝軍寺のほか、もう一つの太子ゆかりのお寺である教興寺があります。



教興寺は、東高野街道沿いのお寺で、物部氏との戦いで太子が陣を置いた場所とされ、戦いの後、太子に近い人物の秦河勝が建立したと伝えられています。その後、幾度かの戦乱に遭い、『河内名所図会』では、お寺が再興された江戸時代の伽藍が描かれています。